

キュウリ

グリーンプラザ第一集出荷センター 営農指導員 宇井 文英

農業 テクニカル ダイアリー

水稲

やさいの里営農センター 営農指導員 大森 秀樹

- **対策**
- ①晴天時・曇雨天時ともに換気によりハウス内の湿度を下げる
- ②受粉後の花弁は早期に摘み取る



写真② 菌核病

菌核病(写真②)は果実の花落ち部に白い綿状のカビが発生することが多い病気で、発病した果実から茎葉にも拡大します。感染適温は15〜21℃であり、多湿時に発病します。また、菌核の状態で植物残渣や土壌中に2年以上生存することができ、一度多発すると完全に抑えることが難しくなります。

菌核病
菌核病やうどんこ病は、毎年発生しやすい病気です。薬剤防除だけに頼らず、病害が発生しにくい湿度管理を心掛けましょう。



写真③ うどんこ病

うどんこ病
うどんこ病(写真③)は、発病すると下位葉から葉にうどんこ粉のような白い粉を生じ、徐々に上位葉にも進展します。比較的高温(15〜28℃)でやや乾燥条件時に発病し、特に3月以降多発します。窒素肥料の多用も本病の発生を助長します。

- **対策**
- ①果実肥大に必要ななくなった下位葉は、摘葉して風通しの良い状態にする
- ②病斑は、葉の表裏両面に発生するので、薬剤散布時は葉の表裏に十分薬剤がかかるところに散布する(10㎡当たり200〜300g)
- ③被害果の早期発見、早期摘果を心掛ける
- ④定期的な薬剤散布に努める

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちら(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決! 栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室 (本所 営農部内)
☎0120-972-860

表② キュウリのうどんこ病・菌核病に登録のある薬剤

薬剤名	適用病害名		希釈倍率	使用時期	使用回数
	うどんこ病	菌核病			
アフェットフロアブル	●	●	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ベルコートフロアブル	●	●	2000倍	収穫前日まで	7回以内
トップジンM水和剤	●	●	1500〜2000倍	収穫前日まで	5回以内
アミスター 20フロアブル	●	●	1500倍	収穫前日まで	4回以内
カスミンボルドー	●		1000倍	収穫前日まで	5回以内
ダコニール1000	●		1000倍	収穫前日まで	12回以内
ポリオキシンAL乳剤	●		1000倍	収穫前日まで	2回以内
プロポーズ顆粒水和剤	●		1000倍	収穫前日まで	3回以内
ピクシオDF		●	2000倍	収穫前日まで	4回以内
カンタスドライブフロアブル		●	1000〜1500倍	収穫前日まで	3回以内
セイビアーフロアブル20		●	1000〜1500倍	収穫前日まで	3回以内
ロプラール水和剤		●	1000倍	収穫前日まで	4回以内

*容器の表示事項をよく読んで、内容を確認してから使用してください。
*混合剤は、成分の総使用回数に注意しましょう。

ヒエ対策

田植え以降、雑草対策でも問い合わせが多いのが「ノビエ」の防除方法です。ヒエは成長速度が速く、稲の栄養を奪ってしまい、成長に悪影響を与えますので、特に注意が必要です。今回は基本的なヒエ対策について説明します。

●ヒエの葉齢に注意

水稲除草剤の登録は「ノビエ」○葉期までという表記になっています。これはヒエに対して除草剤が効果を発揮するかどうか、ヒエの大きさではなく葉の枚数によって決まるからです。気候にもよりますが、田植えから10日前後で1葉期、2週間前後で2葉期、3週間前後で3葉期まで成長します。薬剤によって使用時期は異なりますが、早めの防除をお勧めします。

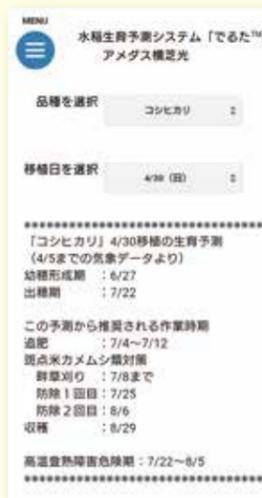
●後発のヒエは特に注意

一発除草剤の効果が切れたころに発生する後半のヒエは、中後期剤で防除しましょう。稲よりも早く出穂するヒエ(写真

①はカメムシのイサとなり、その後出穂する稲に移り、斑点米の原因にもなりますので、この時期のヒエ対策は特に重要です。表①の中後期剤は、特に大きなヒエに効く除草剤に絞って載せていますが、ヒエ以外の雑草も同時に防除できる薬剤もありますので、詳しくはお近くの営農・経済センターまでお問



写真① 稲より早く出穂したノビエ



図① 「でるたTM」の画面
*画面は2023年4月6日現在のものです。

い合わせください。

水稲生育予測システム「でるたTM」

「でるたTM」(図①)は、千葉県農林総合研究センターが開発している水稲生育予測システムです。アメダスデータ、品種、移植日の情報から、水稲の出穂期を予測。追肥や畦畔の草刈り、農薬防除など、斑点米力メムシ類対策の作業適期を計算します。水稲の生育判断、作業計画の参考、生育の年次変動の把握に活用できます。「でるたTM」は、千葉県ホームページで公開されています。

表① ヒエに高い効果を発揮する除草剤

	効果を発揮するノビエの葉齢限界	薬剤名	特徴
初中期一発剤	2.5葉期	カチボシ(Lフロアブルなど)	ヒエに70日の長期残効
	3葉期	ディオーレ(粒剤など)	ヒエに長期残効、広葉雑草にも強い
	3.5葉期	ボデーガードプロ(フロアブルなど)	生育の進んだヒエのほか、侵入雑草にも強い
中後期剤	5葉期・6葉期	クリンチャー 1キロ粒剤・EW	安価で生育の進んだヒエに効果を発揮
	5葉期	クリンチャーバスME液剤	オモダカなど、広葉雑草も防除可能
	7葉期	トドメMF乳剤	中期剤の中で一番大きなヒエに効く薬剤
	6葉期	ワイドアタックSC	収穫30日前まで使用可能